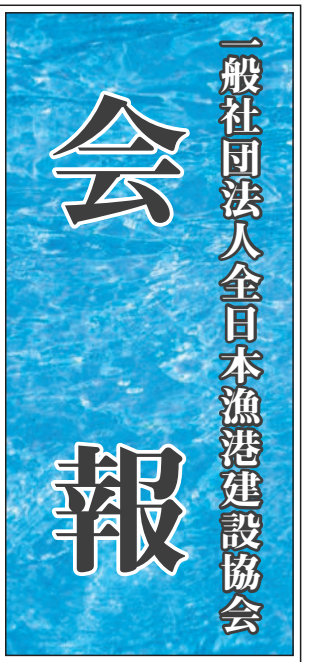




挨拶する岡会長



来賓挨拶をする中村隆漁港整備部長



発行所  
一般社団法人  
全日本漁港建設協会  
〒104-0032  
東京都中央区八丁堀3丁目25番10号  
JR 八丁堀ビル5階  
電話番号 03(6661)1155  
FAX 番号 03(6661)1166  
https://zengyoken.jp/  
発行兼編集人 岡 貞行

# 令和8年度定時総会を開催

全日本漁港建設協会は、5月14日午後、東京都台東区の浅草ビューホテルで令和8年度定時総会を開催しました。定時総会に先立ち、第44回協会表彰式が執り行われ36名が表彰されました。続く定時総会では、令和7年度事業報告、同収支決算、令和8年度事業計画、同収支予算、理事3名選任、常勤役員の報酬額の承認、借入金限度額の承認の件が審議され、全議案とも原案通り承認・可決されました。

定時総会の後には総会懇親会が開催されました。当協会の会員の他、国会議員、水産庁や国土交通省等行政関係などのご来賓、及び関係者の方など400名を超えるご参加をいただき、盛会裏に終えることができました。(懇親会詳細記事・3面)

この表彰は、協会並びに漁港建設業界、あるいは漁港建設業の発展のために多大の貢献をされた方を協会表彰規程に基づいて、その業績を称え広く顕彰するものです。

賞状等の授与贈呈後、会長が祝辞を、受賞者を代表して茨城県支部長 石津健光氏(常総開発工業(株) 取締役会長)が謝辞を述べ、表彰式を終了しました。(代表謝辞記事・2面)

なお、協会表彰開式に先立ち、同日水産庁で行われた令和8年度漁港漁場関係事業優良請負者表彰受賞者13名の紹介及び記念品の贈呈が行われました。(受賞者名簿・2面、大臣表彰受賞者記事・4面)

**令和8年度定時総会**

続いて午後4時30分から開催された令和8年度定時総会では、冒頭岡会長が挨拶に立ち、次いで、来賓として出席の水産庁漁港漁場整備部 中村隆部長の代読により、水産庁藤田仁司長官の祝辞(長官祝辞・8面)を頂戴しました。

議長に福井県の小辻壽之支部長、副議長に徳島県の海老名正裕支部長と佐賀県の岩本真二支部長が選出されると、全会員636社に対して会場出席及び委任状をあわせて422社の出席があることが確認され、総会の成立が宣言されました。

**令和7年度事業報告・収支決算**

議事では、まず初めに令和7年度事業報告について、次のような説明がありました。

技術委員会では、各地区からあがってきた要望事項について検討を行いました。この技術委員会の検討結果や水産庁幹部との意見交換会での議論を踏まえて、「令和7年度漁港漁場関係事業に係る要望」を水産庁漁港漁場整備部長宛に提出しました。要望は、「安定的な事業量の確保と漁港漁場整備長期計画の着実な推進」「国土強靱化対策の推進」「働き方改革と担い手対策の強化」「現場条件に適合した設計及び積算」「漁港漁場関係事業請負者の適切な評価」が大きな柱となっており、

続いて全日本漁港建設協会セミナーについて説明がありました。

当協会のセミナーは例年、東京にて開催していましたが、令和7年度は「能登半島地震災害からの早期復興を応援しよう!」をテーマに金沢市において開催されました。

基調講演には輪島朝市の南谷商店 南谷良枝店長から「輪島朝市の再開に向けて」と題して講演いただき、続いて石川県農林水産部 藤原孝浩次長兼水産課長から「石川県の水産業及び漁港の復旧・復興に向けた取組」について、水産庁漁港漁場整備部防災漁村課 高原裕一水産施設災害対策室長から「水産庁における復旧・復興に向けた支援・取組」について、元岩手県職員のア部幸樹氏(株)アルファ水工コンサルタンツ専務執行役員兼盛岡事務所長から「東日本大震災時における発注者としての経験」について講演をいただきました。

セミナーに引き続き、能登半島地震被災地の視察調査を会員等70名で実施しました。1日目は200隻を超える



令和8年度議長団 左から海老名正裕氏、小辻壽之氏、岩本真二氏

漁船が利用している輪島港、石川県における漁業の東の拠点である蛸島漁港、水産庁による直轄工事が実施されている狼煙漁港(狼煙地区)と鵜飼漁港海岸を視察し、2日目には大規模な隆起が発生した半島西側の鹿磯漁港、黒島漁港、富来漁港、そして北陸地方整備局が工事を実施している和倉港海岸などを視察しました。実際に被災地を訪れ、甚大な地震被害、また、漁港の復旧状況を確認するとともに現場で復旧・復興に取り組まれている方々からのお話を伺うことができ、参加者一同大変いい経験となりました。

事業報告の後、これら事業に基づき令和7年度収支決算についての説明があり、大坂文人監事(岩手県支部長)から監査報告がなされました。事業報告及び収支決算は原案通り承認されました。

**令和8年度事業計画・収支予算**

令和7年度事業報告、収支決算に続いて、令和8年度事業計画について説明がありました。

現在の漁港建設業界や協会の課題に対応した計画となっています。(事業計画基本方針・2面)

令和9年度を初年度とする次期漁港漁場整備長期計画にかかる検討が始まっており、当協会としても水産庁との意見交換や要請活動を行っています。

国土強靱化対策の推進に関しては、漁港の心臓復旧時における円滑な作業船確保に向けた体制構築への働きかけを新たな取り組みとして追加しています。

働き方改革と担い手対策の強化については、ICT技術の活用やプレキャストの推進を継続するとしていました。また、技術力の向上を目指し、若手技術者の育成・確保や技術委員会の活性化などに取り組みました。

3月に協会ホームページに会員の地域の守り手としての活動を公開しましたが、このような広報活動を積極的に進めるとしました(関連記事・5面)。

収支予算も節約に努めつつ、事業計画を遂行するために作成され、詳細について説明があり、事業計画及び収支予算は原案通り承認されました。

**理事3名を選任**

続いて、理事3名の選任について説明がありました。

現在の理事については令和9年度定時総会終結の時までの任期2ヶ年で就任いただいています。3支部において支部長の交代があったため、新支部長を理事に選任する内容です。その場で各理事候補者の選任について諮られ、原案通り承認されました。

**◆新理事**

金田聡氏(神奈川県支部長) 奥村雄二氏(新潟県支部長) 馬渡俊裕氏(福岡県支部長)

なお、新理事の任期は前任者の残任期間となるため、他の現理事と同じく令和9年度定時総会の終結の時までとなります。

**全議案承認され閉会**

最後に、常勤役員の報酬額の承認の件、借入金限度額の承認の件について、説明があり、原案通り承認されました。

午後5時25分に議長から令和8年度定時総会の全ての議事が終了したことが告げられ、総会を閉会しました。

引き続き、午後6時から総会懇親会が盛大に開催されました。(関連記事・3面)



定時総会のように

令和8年度 漁港漁場関係事業優良請負者表彰式

会員十三社が大臣・長官表彰を受賞

令和8年度漁港漁場関係事業優良請負者表彰式が5月14日午後、農林水産省水産庁長官室で行われ、左記の当協会会員13名が表彰状を授与されました。

受賞者を代表して宮崎県の宮前建設(株) 菅野秀三氏が代表取締役を述べました。

●受賞者(敬称略)  
▽農林水産大臣表彰  
○株式会社西村組(北海道) 代表取締役 西村幸浩  
○大坪建設株式会社(長崎県) 代表取締役 大坪弘成

○株式会社マルテック(宮城県) 代表取締役社長 江刺俊正  
○岩崎建設株式会社(新潟県) 代表取締役社長 岩崎裕哉  
○株式会社新創(高知県) 代表取締役 吉良裕児  
○株式会社才津組(長崎県)

○宮前建設株式会社(宮崎県) 代表取締役 菅野秀三  
▽水産庁長官表彰  
○勇建設株式会社(北海道) 代表取締役社長 坂昭弘  
○安田建設株式会社(北海道) 取締役社長 安田最次

○株式会社マルテック(宮城県) 代表取締役社長 江刺俊正  
○岩崎建設株式会社(新潟県) 代表取締役社長 岩崎裕哉  
○株式会社新創(高知県) 代表取締役 吉良裕児  
○株式会社才津組(長崎県)

令和8年春の叙勲・褒章 会員から8名が受章

令和8年春の叙勲・褒章が令和8年4月29日付で発令され、当協会会員から8名の方が受章されました。紙面にて報告させていただくとともに、晴れの受章を心よりお祝い申し上げます。(順不同)

◆旭日小綬章  
◆黄綬褒章  
◆藍綬褒章  
◆建設業振興功労  
岸本剛氏  
(建設業振興功労)  
岸本剛氏  
(佐賀県・(株)岸本組)

◆黄綬褒章  
津波達也氏  
(業務精励・建設業)  
津波達也氏  
(沖縄県・(株)屋部十建)

◆黄綬褒章  
平野金人氏  
(業務精励・建設業)  
平野金人氏  
(三重県・(株)平野組)

◆黄綬褒章  
大滝雅次氏  
(業務精励・港湾建設業)  
大滝雅次氏  
(東京都・(株)大滝工務店)

◆黄綬褒章  
佐藤孝氏  
(業務精励・港湾建設業)  
佐藤孝氏  
(東京都・(株)大滝工務店)



漁港漁場関係事業優良請負者表彰式の様子

代表取締役 戸田博之  
○東豊海建設株式会社(大分県)  
代表取締役社長 名嘉太助

代表取締役 森崎豪  
○株式会社西條組(宮崎県)  
代表取締役社長 西條隆雄  
○山佐産業株式会社(鹿児島県)  
代表取締役社長 門田道弘

代表取締役社長 門田道弘  
○株式会社太名嘉組(沖縄県)  
代表取締役社長 名嘉太助

第四十四回 全日本漁港建設協会表彰 代表謝辞

代表謝辞

今日は、令和8年度定時総会に先立ち、多数のご来賓並びに会員の皆様の前で、はからずも過分なお言葉と表彰状、並びに立派な記念品を賜り、誠に身にあらざる光栄と感激いたしました。

受賞者は、それぞれ全国の各地にあって漁港建設事業に従事されている優良な企業の代表者及び従業員であります。私たちが漁港建設事業に従事するものとして、それぞれ当然の職務を果たしたに過ぎないものであると思っております。

本日の光栄に浴しましたこと、(岩手県・(株)佐賀組) 中野宏一郎氏 (兵庫県・家島建設(株)) 橋本勝策氏 (静岡県・(株)橋本組) また、藍綬褒章を受章された静岡県の佐野茂樹様から受章にあたってのメッセージをいただいたので、ご紹介いたします。

「この度は受章の栄誉を賜り深く感謝申し上げます。このような身に余る光栄にあずかり、身が引き締まる思いです。これまで港湾・漁港の事業に携わらせて頂き、関係する全ての皆様のご支援があつてこそだと強く感じております。今後この栄誉に恥じぬよう、港湾・漁港事業の発展に寄与してまいりたい所存であります。」(佐野茂樹)

とは、関係者皆様の御協力のもと、誠に感謝に堪えない次第であります。 設立後、49年目を迎えられる全日本漁港建設協会は、岡会長の一貫した指導のもとに役員・会員の一致団結と協力により、目覚ましい発展を遂げつつあることは、誠に喜びに堪えません。 受賞者一同今後も微力ながら漁港漁場建設事業の発展のために努力いたし、それぞれの立場を通じて社会に貢献いたします所存であります。 最後になりますが、一般社団法人全日本漁港建設協会の益々の御発展を祈念いたします。

令和8年5月14日 受賞者代表 石津健光

一般社団法人全日本漁港建設協会 茨城県支部長 常務開発工業株式会社 取締役会長 石津健光



受賞者を代表して謝辞を述べる石津健光氏

令和8年度事業計画 基本方針

漁港建設業は、水産業の基盤となる漁港漁場等の建設とともに日々の活動を通じ、海辺の環境保全活動など地域社会への貢献や災害等からの地域の守り手などの社会的責務を果たし、活力ある漁業・漁村の形成に多大な役割を果たしています。

東日本大震災から15年が経過し、その後も能登半島地震をはじめ、台風、局地的な豪雨等による大規模災害が全国各地で頻発しています。今後とも漁港漁場整備の着実な推進とともに災害からの「地域の守り手」としての責務を発揮していくためには、漁港建設業自体が健全に維持・発展することが重要です。

このような中、罰則付き時間外労働の上限規制の適用(令和6年4月)、品確法運用(令和6年4月)、品確法運用(令和7年2月)、第三次・担い手3法の全面施行(令和7年12月)など、近年の漁港建設業を取り巻く環境は大きく変化しています。

また、政府では国土強靱化施策の更なる加速化・深化を図る国土強靱化実施中期計画(令和7年6月)が策定され、これにより、水産庁では、近年の漁業を取り巻く環境の変化に対応するため、令和9年度を初年度とする次期漁港漁

場整備長期計画の検討に着手されました。 当協会では、これら水産基盤整備を取り巻く環境の変化を先取りし、また的確に対応するため、漁港建設業の健全な発展と社会的地位の向上に向けた会員共通の指針として、「新漁港建設業将来ビジョン」をとりまとめ、活動を展開しています。 令和8年度は、先に述べた漁港建設業を取り巻く諸情勢を踏まえつつ、この新ビジョンの実現に向け会員各社一体となって積極的な活動を展開することを基本とし、同じビジョンで掲げた「漁港建設業の健全な発展」並びに「地域社会への貢献等社会的責務の発揮」の目標達成と能登半島地震被災地の早期復旧・復興に向けて、主要事業に重点的に取り組めます。

400名を超す参加者が歓談

# 令和8年度定時総会懇親会

令和8年度定時総会の開催に引き続き、午後6時から浅草ビューホテル飛翔の間で総会懇親会が開催されました。

開場にあたっては、正副会長が立礼により来場いただいた国会議員を始めとしたご来賓、全国の会員、関係者の皆様をお迎えしました。懇親会は、冒頭、岡会長から、ご来賓の臨席、日頃の全漁港活動への支援に対する御礼等の挨拶に続き、ご来賓の国会議員からご祝辞を頂戴しました。

まず、最初に漁港漁場漁村整備促進議員連盟を代表し、

鈴木俊一会長から「来年度から始まる次期漁港漁場整備長期計画の策定に向けて議論を進めている。現長期計画における長期目標の達成度や新たな出てきた課題等を踏まえて、次期長期計画を策定したい。また、会員の皆様はそれぞれの都道府県において重要な生産基盤である漁港・漁場・漁村を整備されている。今後も強い信念をもって漁港建設にご尽力いただきたい」と力強い励ましのご挨拶をいただきました。

続いて、山下雄平農林水産副大臣からは「次期長期計画や水産基本計画の議論が進められているところであるが、業界が先を見通せるよう

な漁港漁場漁村整備の事業予算を作っていく。また、山本啓介農林水産大臣政務官からは「漁業者が安心安全に漁業活動を行い、皆様が整備された漁港に戻ってくる。これが海洋国家日本の正しい形である」。船橋利実水産部会長からは「日本の食料自給の一角を担っているのは水産業であり、漁港整備により日本の食の安心安全を支えていきたい」とそれぞれご祝辞をいただきました。また、公務多用のところへ臨席いただいた多くの国会議員の皆様には、壇上上がったいただき各々ご紹介した後、長野顧問による乾杯のご発声で会が始まりました。

総会懇親会には、当協会の会員をはじめ、国会議員、水産庁や国土交通省等行政関係、水産・漁港・港湾等関係団体の幹部、マスコミ関係者など400名を超えるご参加をいただきました。会場では至るところで歓談を楽しむ様子や名刺交換により挨拶、情報交換する姿が多数見られ、参加いただいた方々にとって有意義な会になったのではないかと願っているところです。

懇親会は大変賑やかな雰囲気の中で進む中、午後7時30分に岩本真二副会長（佐賀県支部長）の



長野顧問による乾杯



船橋利実水産部会長



山本啓介農林水産大臣  
政務官



山下雄平農林水産  
副大臣



鈴木俊一議連会長



ご来賓を立礼で迎える正副会長



壇上でご挨拶をされる国会議員



総会懇親会のようす

【衆議院】鈴木俊一議員、伊東良孝議員、井林辰徳議員、金子容三議員、木村次郎議員、瀬戸隆一議員、高見康裕議員、武部新議員、谷公一議員、中村裕之議員、西銘恒三郎議員、長谷川淳二議員、藤井ひさゆき議員

【参議院】山下雄平議員、山本啓介議員、船橋利実議員、井上義行議員、江島潔議員、加田裕之議員、山本佐知子議員

【参議院(代理出席)】赤澤亮一議員、岩本剛人議員、進藤金日子議員、鈴木宗男議員、滝波宏文議員、鶴保庸介議員、舞立昇治議員、松村祥史議員

の中締めにより、盛会の内に終了しました。ご参加いただきましたご来賓、関係者の皆様には、改めて、御礼申し上げます。(順不同)

令和8年度漁港漁場関係事業優良請負者表彰  
農林水産大臣表彰

## 受賞者の喜びの声

### 受け継がれる信頼を礎に、 未来への挑戦を続ける

株式会社西村組 代表取締役  
西村 幸浩



このたび、令和8年度漁港漁場関係事業優良請負者表彰において、農林水産大臣表彰という栄誉ある賞を賜り、大変光栄に存じます。まずは、弊社をご推薦いただきました北海道水産林務部をはじめ、関係機関の皆様、地域の皆様、そして支えていただいている協力会社の皆様に心より感謝申し上げます。また、日々現場の第一線で安全と品質の確保に尽力している社員一人ひとりの努力が、この受賞につながったものと考えております。

「誰もが知っている、誰も見たくない建設会社」は

### 社員の生活と地域を守る 企業を目指して

大坪建設株式会社 代表取締役  
大坪 弘成



この度、令和8年度漁港漁場関係事業優良請負者として農林水産大臣表彰を賜りましたことは、水産土木事業に携わる者として大変光栄に存じます。

ご推薦を頂きました長崎県をはじめ、全日本漁港建設協会、関係各位の皆様方に心よ

### 地域のために、地域とともに 成長する企業を目指して

宮前建設株式会社 代表取締役  
萱野 秀三



この度、令和8年度漁港漁場関係事業優良請負者として、農林水産大臣表彰を賜りまして、誠に光栄に存じます。

ご推薦をいただきました宮崎県、一般社団法人全日本漁港建設協会様、ならびに関係各位の皆様には厚く御礼申し上げます。

弊社は、昭和27年に宮崎県日向市で創業いたしました。

設備し、経験に裏打ちされた施工方法と精度には発注者様からの信頼をいただき、防波堤・岸壁等の港湾漁港施設工事とはもとより、魚礁工事も多く施工させて頂いております。

今後の建設業においては、労働環境を改善し、将来の建設産業（地域インフラの維持発展）を担う人材が入職し安心して働き続けられる職場環境にすることや、生産性の向上と効率化により今後の人手不足に対応することが求められています。そのため組織を適切に運営するための「仕組み」を規格化した国際標準化規格ISO3部門（品質・環境・安全）を認証取得しています。また、長崎県SDGsや国土交通省みなとSDGsも取得できました。さら

創業者が潜水士だったこともあり、海とは切っても切れない深い関りを有しております。

おかげさまで74年にわたる宮崎県内を中心に港湾漁港事業でのインフラ整備の一翼を担わせていただいております。

東日本大震災が発生してから15年の月日が経過しましたが、宮崎県でも南海トラフ巨大地震の発生リスクがあるため、地震・津波対策は急務となっています。漁港では北浦や川南漁港など、既存の防波堤や岸壁の改良や強化も進め、漁業者が安全で安心して漁業を営み、暮らせるように、ハード面の整備を行っております。

長年に亘り、企業を存続し社員とその家族を守ることができずとも、これまでご指導、ご協力を頂いてきた全ての関係者の方々のお力添えがあったことであります。

今後「謙虚・誠実・実行」をモットーに、社会の人々との協調協力を大事に地域に密着した企業、地域を守る企業として誠心誠意施工に努めてまいります。

関係各位の皆様におかれましては、今後変わらぬご指導・鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。お礼の言葉とさせていただきます。

ますが、ソフト面での協力も惜しんではならないと考えています。最近では、弊社YouTubeチャンネルで日向灘の激しい波浪から漁港を護るための防波堤ケーソン掘付工事の動画を投稿するなど、港湾漁港工事の魅力や重要性を発信する取り組みを行っています。また、弊社は地域に根ざした会社を目指し、「地元・地域の一員」という理念のもと、平成13年より月に

一度、港の周辺にて清掃活動を行っており、令和8年5月の時点で300回目の開催となりました。これからもこういった活動を続け、地域住民への港湾漁港工事への理解の促進、港の美化・活性化に努めていきたいと考えております。

結びとなりますが、この度の表彰は社是である「誠実・実行・協力」を弊社社員や協力業者の皆さんが心に刻み、

### 水産庁長官からのお祝いの言葉

令和8年度漁港漁場関係事業優良請負者表彰において受賞された皆様、あらためましておめでとございます。

本日は表彰を受けた皆様は、漁港漁場関係事業の工事の分野において、長期間にわたる実績を有し、他の請負者の模範となる優秀な業績を残され、我が国水産業と漁村の発展に多大な貢献をされてこられました。この間、技術力の研鑽・向上、業界全体の発展などに注がれた御努力に対し敬意を表しますとともに、本日の受賞に對しまして、心からお祝いを申し上げます。

また、特に災害が発生した場合には早急な初動対応が重要となりますが、漁港漁場関係工事に携わる皆様方には「地域の守り手」として毎年多大なご尽力を頂いていると承知しており、その機動力の素晴らしいことに感謝するとともに、改めて感謝申し上げます。

近年、海洋環境の変化に伴う主要魚種の不漁、自然災害の頻発化・激甚化、漁村の人口減少や高齢化など、水産業や漁村をとりまく環境は厳しさを増しておりますが、水産

実践し続けてもらえた結果であると考えています。

これから先も培ってきた技術を発揮して、地域に必要なとされる企業を目指し、努力を続けてまいりたいと思います。

関係各位におかれましては、今後変わらぬご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。御礼の言葉とさせていただきます。

ト等の取引価格を反映した適正な請負代金の設定や適正な工期の確保について都道府県への周知など、全ての関係者が安心して工事を行っていただけの環境の確保に全力を挙げて取り組むこととしてまいります。

皆様方におかれましては、今回の受賞を契機として更に研鑽を積まれ、今後とも漁港漁場関係事業を通じて、我が国水産業及び漁村の発展に貢献されますことを祈念いたしまして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

令和8年5月14日

水産庁長官 藤田仁司



地域の声

# 会員・支部の活動紹介

## 神戸の海から、国土を支える力持ち

兵庫県支部 寄神建設株式会社

我々、寄神建設株式会社は、1949年、戦後復興の真っ只中の神戸において、「国家の進展と国土建設に貢献する」をモットーに、沈没船を引き上げ航路の啓開を担うサルベージ業を相業として創業しました。

創業以来75年、日本最大の吊り能力を誇る4,100tの吊起重機船『海翔』をはじめとした数々の自社作業船団により、神戸はもとより日本全国、さらには海外においても海洋土木のスペシャリストとして様々な事業に携わっています。

また、海洋土木にとどまらず、陸上土木や建築分野にも展開し、総合建設業として神戸の街づくりを中心に、日本全国で国土建設の一端を担っています。

さらに現在は、近年、弊社で施工した淡路島での起重機船を活用した工事の一例をご紹介します。

コンクリートブロック据付状況



脱炭素社会の実現に向けた取り組みとして、2012年より太陽光発電事業を展開しており、淡路島には発電出力30メガワットを誇るメガソーラーを保有しています。加えて、洋上風力発電事業では自己昇降式多目的クレーン船を用いた風車建設にも取り組むなど、再生可能エネルギー分野にも積極的に参画しています。

近年、弊社で施工した淡路島での起重機船を活用した工事の一例をご紹介します。

弊社株式会社鳳建設は、昭和55年の創業以来、熊本市を拠点に土木工事や浚渫工事、舗装工事に携わってきました。今回は、その中でも地域の漁業と暮らしを支える浚渫工事について紹介します。

熊本の漁港は、日本最大級の干満差を持つ有明海に面し、海苔養殖や貝類採取を営む方々に利用されています。小型船が中心の小規模漁港が多く、底質はシルトや粘土が主体で、航路や泊地が埋まりやすいため、漁港機能を保つには継続的な浚渫が欠かせません。

一方、熊本の漁港での浚渫工事には地域特有の難しさがあります。海苔の漁期である11月から3月は工事が制限され、泊地によっては大潮の干潮時に干上がる場所もあります。加えて、近隣に土砂処分場が少ないため、

設のチェーンおよびコンクリートブロックを撤去し、新たに製作したもののへ更新することで、船舶の離発着における利便性向上を図るものです。

旋回式起重機船は、設置物を甲板上に積載して運搬できる点が特徴で、複数の重量物を扱う場合や、今回のように繰り返しクレーン作業を行う現場で特にその能力を発揮します。

初日に4基、2日目に残り2基を設置し、効率的に施工を進めることができました。その後、改良工事を終えた交流の翼港では、大阪・関西万博の会場と淡路島を結ぶ高速船が運航され、多くの方が淡路島から万博会場へと向かったと聞いています。弊社としても、国を代表する事業の一端を担えたことは大変誇りに感じています。

## 有明海の漁港を支える浚渫工事

熊本県支部 株式会社鳳建設

浚渫土の運搬が長距離に及ぶことも少なくありません。こうした条件の中で、現場に応じて機材や測量方法を使い分け、効率と精度の確保に努めています。狭く浅い泊地では小型の浚渫船を用い、必要に応じて沖合で大型船へ積み替えることで運搬の効率化を図ります。近年は、浮き桟橋の下や干潟地など、従来の浚渫船では対応が難しい場所

での施工方法についても試験施工を進めています。漁港の機能を守ることは、水産業の継続だけでなく、地域の雇用や食の安定を支えることにもつながります。安全に入出港できる環境を維持するため、これからも現場の知恵と技術を磨き、地域の基盤を支える役割を果たしていきたいと考えています。

(株式会社鳳建設)



据え付け位置の調整中



左から海翔・新建隆・神翔 1600

小型船が中心の小規模漁港が多く、底質はシルトや粘土が主体で、航路や泊地が埋まりやすいため、漁港機能を保つには継続的な浚渫が欠かせません。



堆積により漁港が機能しない



干潟走行機による排土



小型浚渫器による排土

## 漁港建設業の「地域の守り手」としての活動紹介の取り組み

事務局より

令和7年度末に漁港建設業の「地域の守り手」としての活動紹介ページを協会ホームページ内に公開したところ、水産経済新聞で紹介されるなど多くの反響がありました。3月公開の第二弾では、災害発生時の復旧・復興活動を中心に、全国で23の取り組み事例を紹介しましたが、それに加えて公開後に情報提供のあった活動事例も追加で掲載しています(タチバナ工業(株)の海面清掃活動)。

今年度も「漁港建設業が果たす「地域の守り手」としての活動事例調査」を実施いたします。会員・支部の皆様におかれましては、漁港建設業が果たす社会的な役割の周知に向けて、情報提供の協力をお願いいたします。写真や動画などの提供もお待ちしております。

本ページに対するご意見や感想も頂けますと幸いです。

—— 漁港建設とは ——

漁港の緊急海面清掃 (香川県高松市・タチバナ工業株式会社)

平成30年7月の台風被害において、河川から流出した大量のゴミが漁港を塞ぎ、船舶の出入りができなくなりました。

香川県と高松市が連携し、関係機関より支援を受け、緊急的に海面清掃を行いました。

海面を清掃する様子。

4日間で約100kgの作業量が完了し、30トンダンプトラック3台分のゴミが回収されました。

漁港の緊急海面清掃 (香川県高松市・タチバナ工業株式会社)

# 次期漁港漁場整備長期計画の 方向性について

期計画検討委員会 田村憲久  
委員長も、「水産を取り巻く  
状況は環境の変化など多くの  
課題がある  
中、漁港・  
漁場・漁村  
を賑わい稼  
げるものに  
していかな  
ばならない。

漁港漁場漁村整備促進議員連盟 提言

- 水産業の強靱化のため、漁港・漁場・漁村は、その時代々々に求められる機能をアップデートしていく「進化」が求められており、漁港漁場整備長期計画が果たす役割は極めて重要。水産基本計画に密接な連携のもと、国民から広く支持される新たな漁港漁場整備長期計画を策定するより、強く期待。
- 危機管理役割・成長投資の観点も加え、現下の危機的な状況を突破するために、漁港・漁場・漁村関係予算の更なる確保に万全を期すべき。



議連（鈴木俊一会長）から提言を申し入れ

要であるとして、現行の漁港漁場整備長期計画の進捗・評価をすることにも、①海洋環境変化に適応した持続可能な生産基盤の確立、②生産力・競争力強化のための水産業の拠点の形成、③災害リスクとインフラ老朽化に対応した漁港・漁場・漁村の戦略的強靱化、④にきわい稼げる漁村に向けた海業の振興と漁港・漁村の環境づくり、の4つの次期計画で検討すべき

提言では、我が国の水産業や漁港・漁場・漁村は、目下の大きな課題である海洋環境の急激な変化、社会構造に大きな変化をもたらす人口減少・少子高齢化、食料安全保障を取り巻く環境の変化、自然災害リスクの増大、進行するインフラ老朽化、環境問題を巡る世界的な潮流などの情勢の変化に先手

公益社団法人全国漁港漁場協会及び全国漁港海岸防災協会は、2026漁港漁場漁村海岸写真コンクール作品募集を開始しました。

同コンクールは、みんなが愛する美しい漁港・漁場・漁村・海岸づくりをテーマに写真を通じて、わが国の海や漁業及び漁港・漁場・海岸の現

広く一般の方々の理解を求めるとともに、漁港・漁場・漁村・海岸の整備の促進、ひいては、わが国水産業の発展に貢献することができるとのよう。一般財団法人漁港漁場漁村総合研究所、一般社団法人水産土木建設技術センター、一般社団法人全日本漁港建設協会の協賛、水産庁の後援で毎年開催されています。プリントされた写真（キャビネ版以上）の他、SNSをイメージしたスマートフォンによる写真も受け付けています。

会長賞」も設けられています  
漁港・漁場・漁村・海岸にお  
ける工事の風景など広く多く  
の皆様からのご応募をお待ち  
しております。

締切日 2026年8月21日

入賞作品

☆特選1席  
農林水産大臣賞 (1点)

☆特選2席  
水産庁長官賞 (1点)

☆特選3席

万全を期すべき、と述べてい  
ます。

(漁港漁場漁村整備促進議  
員連盟事務局

(公社) 全国漁港漁場協会)

一般社団法人全日本漁港建設協会は、令和8年7月2日に創立48周年を記念して海上の安全を祈願しました。



山王日枝神社

|             |       |
|-------------|-------|
| ☆入選         | (6点)  |
| ☆佳作         | (12点) |
| 応募先 (お問合せ先) |       |

**応募先（お問合せ先）**

11-101-0045

東京都千代田区神田鍛冶町3

6—7  
ウソピン 神田ビル

2階

(公社) 全国漁港漁場協会

2026 漁港 漁場 漁村 海岸

写真コンクール」係

TEL 03-6206-0066

FAX 03-6206-4066

Mail info@gyokou.or.jp

新任 挨拶

災害に強い漁港づくりを進め、  
地域の水産業と暮らしを  
守り抜く体制をより確かに



水産庁漁港漁場整備部  
防災漁村課水産施設災害対策室長

内田 智

を代行するなど、災害復旧の支援により一層努めてまいります。

一方で、こうした取組みを効果あるものとするためには、現場を熟知し、技術と

経験を蓄積してこられた建設業界の皆様との連携が不可欠です。漁港に精通した建設業団体と災害協定を締結した地域は、応急対策の実施が極めて早く開始されるところを耳にしました。建築資材の高騰や作業員の確保など難しい課題が多く山積する昨今ではございますが、協会の皆様とともに、災害に強い漁港づくりを進めることで、地域の水産業と暮らしを守り抜く体制をより確かなものにしていきたいと考えております。

今後とも、皆様のご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

第24回全国漁港漁場整備  
技術研究発表会

新潟県佐渡市において開催

水産庁では全国の漁港・漁場整備関係者を対象に、漁港及び漁場に関する技術の向上及び普及を目的として、例年、全国漁港漁場整備技術研究発表会を開催しています。

会」として実施されました。

今年度は4会場合計で約230名が受講しました。そのうち約3割が県・市町村等発注者の職員で受発注者が席を同じくして受講し、共通の認識を得られる非常に有意義な講習会となりました。

各会場とも午後1時に開会され、水産庁漁港漁場整備部、一般社団法人水産土木建設技術センター、一般財団法人経済調査会、協会の5名の講師から、カラーテキストやスライド資料に基づき詳細な解説がありました。

各講義の演題及び講師は次のとおりです。

①「水産庁における品質確保に関する取り組み」

同講習会は、漁港漁場関係工事の各種基準等について、協会は水産庁の後援を受け一般社団法人水産土木建設技術センターと共催で、令和8年度漁港漁場関係工事積算基準講習会を東京、福岡、神戸、仙台の4会場で開催しました。

第一線で活躍中の実務者へ最新の改定点や内容の周知徹底を図るため、平成8年から毎年開催しているもので、入札参加資格審査や個々の入札の審査等の行政手続きの技術評価項目として活用される「土木施工管理技士会連合会のCPDS（継続学習）認定講習

CPDS認定

令和8年度  
漁港漁場関係工事積算基準講習会

今年度から適用の積算基準等を解説



講習会のようす



来賓挨拶をする水産庁  
の野事業課長

| 令和8年度漁港漁場関係工事積算基準講習会開催状況 |                              |      |     |     |     |
|--------------------------|------------------------------|------|-----|-----|-----|
| 会場名                      | 会場・日時                        | 受講者数 |     |     |     |
|                          |                              | 会員   | 発注者 | その他 | 合計  |
| 東京                       | 東京国際フォーラム<br>【開催日】 6月2日      | 36   | 10  | 0   | 46  |
| 福岡                       | 福岡朝日ビル<br>【開催日】 6月10日        | 54   | 36  | 1   | 91  |
| 神戸                       | 三宮研修センター<br>【開催日】 6月11日      | 27   | 16  | 0   | 43  |
| 仙台                       | TKP ガーデンシティ仙台<br>【開催日】 6月17日 | 44   | 9   | 0   | 53  |
| 合 計                      |                              | 161  | 71  | 1   | 233 |

【基調講演】

令和6年能登半島地震津波から考える新潟県周辺海域の津波特性と港湾防災ならびに命を守る避難行動

長岡技術科学大学工学研究  
院環境社会基盤系

犬飼直之氏

【開催地報告】

新潟県における海業の取組

新潟県農林水産部水産課

【一般発表】

①長崎県を海業県として全国

費・市場単価の動向等につ

いて「一般財団法人経済

調査会 土木第二部港湾空

港調査室長 岩瀬真・土木

第二部港湾空港調査室 土

井博

⑤「現場からの視点による設

計・積算について」一般

社団法人全日本漁港建設協

会会長 岡貞行・業務課長

田原正之

終了後、受講者からは、「積

算経験が浅い参加者でも分か

りやすい」「実際の積算例の

紹介が勉強になる」「直近の

情報も踏まえた講習でとても

良かった」「有益な情報を得

ることができ、参加した甲斐

があった」「様々な視点から

の講義を受けることができる

良い機会だった」などの声が

寄せられました。

新規入会正会員

◆第64回理事会

▼長崎県支部

○株式会社ハラダ（対馬市）

代表取締役・原田繁盛

○株式会社昭大建設（対馬市）

代表取締役・糸瀬三代喜

▼沖縄県支部

○ムトウ建設株式会社（那覇

市）

代表取締役・武東愛一郎

展開する土木行政者心得

長崎県対馬振興局河港課

②沿岸性魚種の資源化増大を

図る対象種の生活史に対応

した漁場整備

青森県農林水産部水産局漁

港漁場整備課

③水産公共関連民間技術確認

審査・評価事業について

「FRGカバエ工法による

漁港施設等の補修・防食技

術などの紹介」

（二社）漁港漁場新技術研究

会

（株）ダイト

④能登半島地震を踏まえた耐

震調査手法に関する技術的

活用事例について

（一社）全日本漁港建設協会

「水産庁報告

気候変動に対応した漁港漁場

整備

水産庁漁港漁場整備部事業

課

⑦漁港建設業におけるICT

活用事例について

（一社）全日本漁港建設協会

⑧令和8年度事務局長会議

8・11・5 秋田県

⑨中国・四国地区連絡協議会

支部長・事務局長会議・第

1回技術委員会・研修会

8・9・30 徳島県

⑩全日本漁港建設協会セミ

ナー

8・10・8 東京都

⑪北陸・近畿地区連絡協議会

第1回技術委員会・総会

8・10・14 福井県

⑫九州・沖縄地区連絡協議会

合同技術研修会

8・10・15 宮崎県

⑬第102回運営委員会

8・10・27 東京都

⑭第20回新しい漁港漁場政策

に対する要望と意見交換会

8・10・27 東京都

⑮北海道・東北地区連絡協

議会総会・第1回技術委員

検討

「漁港漁場施設の設計手法

の高度化検討調査」共同研

究機関

（二財）漁港漁場漁村総合研

究所

復建調査設計㈱

⑮UAVドローンレーザーを

用いたコンブ藻場のモニタ

リング手法

（国研）土木研究所寒地土木

研究所

⑯水産物の更なる付加価値向

上に向けた取組とその効果

の検証について

北海道開発局農業水産部水

産課

⑰漁港建設業におけるICT

活用事例について

（一社）全日本漁港建設協会

⑱令和8年度事務局長会議

8・11・12 東京都

⑲関東・東海地区連絡協議会

支部長会議・第1回技術委

員会・研修会

8・11・19 三重県

⑳第19回技術委員会

8・11・26 東京都

㉑全日本漁港建設協会技術研

究発表会

8・11・27 東京都

協会の人事異動

5月7日付

○愛媛県支部

▽退任（支部長）平野武邦

▽就任（支部長）井原 伸

6月25日付

○茨城県支部

▽退任（支部長）石津健光

▽就任（支部長）飯田基昭

# 令和8年度定時総会

日時 令和8年5月14日  
午後三時四十五分  
場所 浅草ビューホテル「祥雲の間」

## 次第

一、表彰式

一、定時総会

一、開会

一、会長挨拶

一、来賓挨拶

一、議長選出

一、議事録署名人の選出

一、議事

報告事項 令和7年度事業報告の件

第一号議案 令和7年度収支決算並びに財産目録承認の件

第二号議案 令和8年度事業計画承認の件

第三号議案 令和8年度収支予算承認の件

第四号議案 理事3名選任の件

第五号議案 令和8年度常勤役員の報酬額の承認の件

第六号議案 令和8年度借入金限度額の承認の件

一、閉会

### 会長挨拶要旨

本日お集まりの理事・役員をはじめ会員の皆様には、日頃から全漁建の活動に、暖かいご支援を賜っていること厚く御礼申し上げます。また、本日は、公務が多忙の中、水産庁から中村漁港漁場整備部長並びに的野事業課長にご臨席いただいております。日頃のご指導・ご支援と合わせまして、厚く御礼申し上げます。

さて、今年は、あの「千年に一度」といわれた巨大津波により三陸沿岸地域に壊滅的被害をもたらした東日本大震災から15年、また、2度にわたり震度7を出した熊本地震から10年、その後も、一昨年の能登半島地震をはじめ、全国各地域において、地震や豪雨、更には沿岸火災による災害が多発し、会員各社におかれては、その都度「地域の守り手」としてご活躍いただいていることと思います。

また、昨年は、例年になく猛暑・酷暑が続く、各現場においては大変ご苦労が多かったのではないかと察しているところです。日頃の建設業を通じた会員各位のご苦労、また、様々な社会へのご貢献活動に対し、改めて敬意を表する次第であります。

さて、我々業界にかかる最近の動きを見渡しますと多くの出来事が起こっています。

まず、直近の課題としては、中東情勢の影響により重油をはじめ建設資材の入手、また、価格の高騰がこれまで以上に懸念されているところです。当協会としては、現場の実情を水産庁へ情報提供し、影響の軽減に努めてまいります。

また、事業の実施面においては、昨年12月に第三次・担い手3法が全面施行され、これにより、建設労働者の処遇改善や働き方改革等に向けた新制度が全て出揃ったこととなります。当協会としては、これら法の趣旨に則り、技術委員会の活性化などを通じ、必要な収益確保やICTまたプレキャスト化の推進による生産性の向上など、着実な成果が上がるよう努めてまいります。

また、近年多発・大規模化する自然災害に対応するため、昨年6月には、20兆円強を事業規模とした国土強靱化実施中期計画が策定されました。防災・国土強靱化は高市政権の重点17分野の一つでもあります。漁港・漁村は、災害、特に海からの高潮や津波等に対して脆弱な条件下にあります。今後は、当該計画に基づき、漁港施設の強靱化や老朽化対策など、特に事前防災の観点から、必要な事業量の

確保に努めてまいります。

さらに、水産基盤整備の関係では、現漁港漁場整備長期計画が今年度をもって終期を迎えることから、水産庁では、次期計画の検討に入られています。

漁業を取り巻く環境は、近年の海水温上昇や藻場・干潟の減少など海洋環境の変化により大変厳しい状況にあります。

また、先述のとおり、我が国は災害大国であり、毎年、地震や津波、更には、沿岸火災等による災害が多発しています。次期計画においては、これら課題に対応するため、会員の皆様の意見・要望を伺いつつ水産庁へお届けし、水産土木技術を最大限活用した、夢のある計画となるよう取り組んでまいります。

能登半島地震発生から2年半が経過します。昨年11月、当協会会員ら70名で被災地域の視察を行いました。これまで経験のない大規模な地盤隆起の影響もあり、復旧・復興はまだまだ道半ばの様相でした。当協会では、地元石川県支部を中心に円滑な入札契約、また、施工確保の面から早期復旧・復興を支援していきたいと思っておりますので、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

以上、漁港建設業が直面する主な課題と今年度の取り組みの決意をお話ししてきました。この後、皆様方にお諮りします、令和8年度の事業計画や予算など各議案については、現下漁港建設業を取り巻く諸課題の解決、また、究極の目標である「漁港建設業の健全な発展」、また、「社会的地位向上」のためには、いずれも不可欠な内容となっておりますので、何卒ご理解とご支持の程、よろしくお願い致します。

結びに、全漁建会員各社の益々のご繁栄を心から祈念申し上げます、ご挨拶といたします。本日はよろしくお願い致します。

### 藤田仁司水産庁長官 祝辞(抄)

本日ここに、一般社団法人全日本漁港建設協会令和8年度定時総会が開催されるに当たり、一言御挨拶を申し上げます。

貴協会は昭和53年の設立以来、会員各社の技術力の研鑽・向上を通じ、地域の守り手として、漁港・漁場・漁村の整備の促進と水産業・漁村の発展に多大な貢献をいただいております、また、令和6年1月の能登半島地震をはじめ、多くの災害現場での初動の対応、応急復旧や本復旧など、被災地の支援にも積極的に取り組んでいただいております。

これらの御尽力に対し敬意を表しますとともに、深く感謝申し上げます。

また、本日、令和8年度漁港漁場関係事業優良請負者の農林水産大臣表彰、水産庁長官表彰、第44回全日本漁港建設協会表彰の各賞を受賞された皆様、心より御祝い申し上げます。

上げます。今後とも、建設技術の向上や地域貢献など業界の模範となるご活躍を期待しております。

さて、近年、我が国の水産業をとりまく状況は大きく変化しており、気候変動や海洋環境の激変及びそれに伴う水産資源の変動や主要魚種の不漁、漁業者の減少・高齢化、水産加工品の原材料不足、中東情勢の緊迫化に伴う原油価格の急騰など昨今の物価高騰といった様々な課題に直面しております。

また、気候変動による高波、豪雨等の災害の激甚化、切迫する南海トラフや日本海溝・千島海溝といった巨大地震・津波、施設の老朽化の進行等を背景に、災害に強い漁港・漁村づくりが求められています。

農林水産省としては、こうした様々な環境変化に向き合い、水産業の強靱化を図るため、水産資源の適切な管理、養殖業の成長産業化、水産加工業の変革に挑戦する取組、海業の全国展開の加速化等、豊かで魅力ある浜づくりを推進しているところであり、加えて、「国土強靱化実施中期計画」に基づく防災・減災対策等を着実に推進しているところです。

また、このような中、令和9年度からは、新たな水産基本計画及び漁港漁場整備長期計画を策定することとしており、これまでの施策の評価や残された課題への対応について、整理・検討を進めているところです。

特に漁港漁場整備長期計画においては、  
○海洋環境に適応した漁場・漁港の整備  
○生産力や競争力強化のための機能の再編・強化  
○災害リスクやインフラの老朽化への対応  
○海業振興をはじめ漁村の環境づくり

に向けて、施策の検討を行っているところです。  
既に地元の切実なお声もお聞きしておりますが、引き続き、全日本漁港建設協会の会員の皆様方をはじめ、漁業関係者や地方公共団体の方々から御意見をお聞きしながら、「みんなであつくる長期計画」を目指しております。

また、建設業を取り巻く状況が大きく変化する中で、令和6年に第三次・担い手3法として法律改正が行われました。引き続き、新技術導入による生産性向上、現場条件に応じた適正な積算や工期の設定、休日確保等の働き方改革を促進してまいります。

さらに、昨今の中東情勢の緊迫化等による原材料費、エネルギーコスト等を反映した適正な請負代金の設定や適正な工期の確保について、直轄事業はもちろん地方公共団体等への周知徹底を図るなど、全ての建設関係者の皆様が安心して工事を行っていただけるよう全力で取り組むこととしていきます。

会員の皆様におかれましては、こうした漁港・漁場・漁村の基盤整備を通じ、水産業・漁村の振興について、より一層の後押しして頂くことを期待しております。今後とも漁港漁場漁村整備に係る施策へのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。